

## 酒造り名人への挽歌

## 戴老の酒店に題す

李白

戴老 黄泉の下

戴老黄泉下

還た応に大春を醸すべし

還応醸大春

夜台に李白無きに

夜台無李白

酒を沽りて何人にか与う

沽酒与何人

- ◆ 酒造り名人 戴じいさんは もういない  
 ◆ あの世界で 銘酒「大春」を 造っている  
 ◆ あの世にや 李白はいないのに  
 ◆ いったい 誰に売るつもり

①「内に贈る」二八頁注①参照。  
 ②死者の魂が行く地下の世界。世界は「木・火・土・金・水」の五要素から成るとする五行思想では、「土」は五色（青・赤・黄・白・黒）の「黄」に配当されるため「黄泉」という。日本で「黄泉」と読むのは、日本神話で死者の世界をいう「よみ」にこの漢語を借りたもので、語源はまったく違う。

串田 「戴じいさんの酒屋に書き付けた詩」ですね？

諸田 はい。たぶん李白の行きつけの店でしょう。

串田 そのこの主人の「戴じいさん」が亡くなり、その死を悼んで詠んだ詩、ということでしょうか？

諸田 ええ、詩の題を「宣城の善醸紀叟を哭す」とするテキストもありますから、そう理解して問題ないと思います。

串田 「宣城（安徽省）」って、李白が晩年によく訪れた街ですね。

諸田 はい。「善醸紀叟」は、「酒造り名人の紀じいさん」という意味です。この詩題だと、亡くなった紀じいさんを悼んで詠んだ詩、ということになります。

串田 戴じいさんにせよ、紀じいさんにせよ、酒屋の主人への思いがつまっていますね。

諸田 それに、李白の寂しさも伝わってきます。  
 串田 二人とも、酒造りの名人で……。



現代版「大春」  
だという密州春

諸田 そのじいさんたちが造っていたのが、銘酒「大春」なんです。

串田 中国には、「春」の字がついた銘酒が多いですよ。 「老春」、「土窟春」、「石凍春」、「焼春」……。

諸田 さすが酒豪！ シュゴーイ！ どれも唐代の銘酒ばかりです。

串田 オヤジギャグは結構です。それより、蘊蓄を傾けるのはこれくらいにして、そろそろ酒杯を傾けませんか？

諸田 ダジャレのご返杯？ まあ一献、なんとなく冷えてきましたし……。

串田 で、どうして「春」のつく銘酒が多いか、ご存じ？

諸田 春といえば、四季の始めですよ。

串田 そう、陽気が兆してくる季節です。

諸田 ポカポカ、暖かい……。

串田 草木は芽生え、万物が一斉に生まれ出て、衰えた生命力が回復する季節。だからお酒を「春」に喩えるのではないかと。

諸田 どうりで、いつのまにか私も、胃のあたりがポカポカ暖まってきました、

③ 陰陽思想では、陰と陽の消長によって四季の変化を説明する。春に兆した陽気は、春分を経て夏至に極まり、一方、秋に兆した陰気は、秋分を経て冬至に極まる、とされた。

春みたいに。

串田 「回春」の効能をうたう酒もありますね。

諸田 ④「三鞭酒」なんて酒もあります。「若返り、回春の酒」です。

串田 それはそうと、日本酒には、「春夏秋冬」全部そろっています。

諸田 ヘー、そうでしたか。きっと、日本人は季節に敏感で、それぞれの季節に合った酒を造るのが好きだったからでしょうね。

串田 それがどうも、四季すべてあることはあるんですが、調べてみると、あまり多くはないんです。

諸田 じゃあ、「季節に敏感だから」は撤回します（笑）。

串田 そろそろ、李白の詩に戻りましょう。三句目の「夜台」ですが……。

諸田 はい、「屋台」で一杯、ですね（笑）？

串田 だいぶご酩酊ですな。「夜台」というのは「あの世」のことですよ。

諸田 そういえば、墓穴のことも「長夜の台」といいますね。

串田 「死」は「長夜の眠り」ですから。



④ 牛・羊・狗の三鞭（性器）を配合した醸造酒（白酒）。滋養強壮・精力回復に効果があるとされる。